

第4回行政評価検証専門部会会議録

日 時	平成27年10月30日（金）午後1時～3時
場 所	北上市生涯学習センター 学習室
出席者	【委員】佐藤徹副委員長（部会長）、児山正史委員、高橋秀行委員、高樋さち子委員 欠席—岩淵公二委員 【事務局】政策企画課長、高橋主査、財務部長、財政課長、小原財政課長補佐

施策（全3件）について、事前に各委員が記載した評価シートを基に、部会としての評価を協議した。

協議内容を基に事務局が外部評価シートを整理し、各委員に外部評価シートを送付することとした。

1 部会長あいさつ

第4回ということで、あと残り1回となるが、残り1回は全体会に向けた最終確認となっている。今回は、実質的に政策評価委員の合意形成を図っていくというのが主眼となる。かなり神経を使う作業となるので、よろしく願う。

2 協議

【外部評価シートのとりまとめ方法について】

（委員）初めに、どのような形で取り纏めをしていくかについて、意見を伺い、確認を取りたい。今回が初めての委員もいるので、これまでどのように行っていたか説明差し上げ、質問等があればこたえていく。例年の集約の仕方について説明すると、既に4名の委員から外部評価シートが出されており、手元には委員の名前の入った集約された資料がある。3つの施策があり、施策の項目ごとにA～Dが付けられており、例えば4人ともBであればおそらくBとなるのであるが、大抵は分かれている。そういうときに委員会として1本化していくという作業を行う。また、評価の理由については、できるだけ各委員の意見を尊重するというので、本人から変更や削除の申し出がない限りは、このまま掲載している。そして、A～Dの1本化をどのような形で進めていくかについて説明する。先ほど述べたとおり、全員が同じ評価であれば、基本的にそのとおりでいく。分かれたときについては、多数決というのはこれまであまり取っておらず、単に多数決を取ることではない。例えば、AとBに分かれたとき、Aが「適切」でBが「概ね適切／一部見直しが必要」であり、誰か1人でも「一部見直しが必要」という意見

があるときは、Aが「見直しが一切無い」という判定であるため、Aが過半数であってもB評価にするという形で進めてきた。具体的には、Aが3人でBが1人のときは、B評価とする。これまでこのように、システムティックに意見を合成していた。これにより、大体は辛口の評価となる傾向があった。ただし、このように出されたA～Dの評価に違和感があるとき、システムティックな方法で解が得られないときは、協議をして決めていた。例えば、Bが2人でCが2人となったとき、単純にCと評価してよいのかどうかというところがあり、協議をして決めていた。なお、議論の中で他の委員の意見を聞いて、自身の評価を変更したいというものは変更して構わず、追加意見もあってよい。これまでの説明で質問等はあるか。

(委員) A～Dの説明を聞きたい。Aは完璧なものということか。

(事務局) 個別の外部評価シートに記載がある。

(委員) Aが「適切」、Bが「概ね適切／一部見直しが必要」、Cが「一層の努力が必要／かなりの見直しが必要」、Dが「不適切／抜本的な見直しが必要」となる。今回、委員からDの評価はなかった。このやり方で進めてよろしいか。

(委員) 異議なし。

(委員) 昨年度まで、集約した意見の説明は部会長から行っていたか。

(事務局) 今回、事務局から説明する。

(1) 知・徳・体を育むについて

① 施策評価

施策の成果が明確に定義されているか

(委員) 4人が2人ずつBとCに分かれているが、評価の理由を見ると、かなり一致した意見である。Bが2名となっており、1名分の理由しかないが、ABが平均より上という評価であることから、理由を積極的に記入していないものと思われる。システムティックに考えると、Cということになるが、果たしてCでよいか。その前に、意見を変更する委員がいるかどうか。

(委員) C評価というのはそのまま、評価の理由を訂正したい。他の委員に近い意見となる。「徳が成果の定義に表現されていない」という旨にする。

(委員) 具体的に評価の理由の表現をどのように修正するか。

(委員) 「学力や体力・運動能力の維持向上」と「子どもたちが自ら学び、運動する姿となっていること」はもちろん関連するが、どちらが成果として捉えられているのか曖昧。」の部分削除し、「補導件数の減少を「徳育」の成果と捉えるのも、狭いのではないか。」については、項目「評価指標の設定は適切か」の評価の理由であることから、そちらに移動させたい。したがって、「成果の定義に徳育が入っていない。」という表記にしたい。

- (委員) 最終的には委員の個人名は入らないということによろしかったか。
- (事務局) そのとおり。
- (委員) 他の委員と同じ理由ということであれば、削除してもよいと思う。評価について、CかBか。私がBとした理由は、「知」「徳」「体」の3つのうち、知と体については成果が明確に定義されていないわけではなく、徳の部分のみが曖昧であるため。もう一人、Bとした理由は何か。
- (委員) 担当部からの説明を聞けなかったため資料から判断したのだが、やはり「知」「徳」「体」のうち徳が抜けていることからBとした。
- (委員) しかしながら、知と体の成果が明確に定義されているかどうか。指標とも関連している。
- (委員) 記載されているものは、成果として明確に定義されていると思う。ただし、徳は大きな要素であり、私はCだと思う。また、総合計画の策定課題かもしれないが、不登校に関する施策と分かれてしまっている。しかしながら、特にも他人を思いやるというのは大事なので、徳の成果を明確に定義してもらいたい。
- (委員) Cということは、「一層の努力が必要／かなりの見直しが必要」となる。BとCでは、かなりの溝がある。
- (委員) 知徳体3つのうちの1つということで、譲歩という形になるがCからBに変更したい。徳の定義についても、なかなか難しいところである。
- (委員) 施策の名称にも「徳」が入っているので、何かしら成果の記載がほしい。評価の理由について、「施策名に記載があるので、成果にも記載してもらいたい」という旨の意見としたい。
- (委員) 評価を「B」とする。

評価指標の設定は適切か

- (委員) 先ほどの申し出のとおり、項目「施策の成果が明確に定義されているか」の評価の理由「補導件数の減少を「徳育」の成果と捉えるのも、狭いのではないか。」という記載については、こちらに回すということによいか。
- (委員) それでよい。
- (委員) Bが3人でCが1人となっている。AとDにはならないであろう。
- (委員) 評価の理由にあるとおり、BとはいかずCであろうと考えた。
- (委員) 「施策評価の指標項目の再検討を要す」とは具体的にどういうことか。
- (委員) 少年補導の指標について、この並びとして質が違うのではないかということと、全て同じスケールで行ってほしいという話があったかと思うが、実数値とするのか指数値とするのか統一させてほしいということ。少年補導の指標を、削除するのではなく、代替のものがよいのではないかということ。
- (委員) 指数か実数かというのは、ここだけではなく全体に関わるものである。

(委員) 3人対1人でBになるのではないか。多数意見の方が標準的なものであろう。

Bがよいと思う。

(委員) C評価としている委員からBにという意見があったことから、「B」とする。

要因考察や課題の把握は適切か

(委員) Aが2人でBが2人と分かれている。Bとした委員は、CではなくBとした理由はあるか。

(委員) 要因考察として、大凡このとおりであろうということでBとした。記載されていることに間違いはないと思う。

(委員) 要因分析の記載をしっかりとしてほしいということで、私はCとしている。

(委員) 「小学校に比べ、中学校になって全国的に見て学力が低下してきている」というのは言い切ってよいか。

(事務局) 事実ではある。

(委員) クラブ活動が始まり勉強時間が割かれることから、全国的にそうになっている。地方に見られる傾向である。

(委員) このままでは決まらず、可否同数のときは議長が決するというので、「C」とする。

(委員) 評価の理由に、「要因分析が不十分である。」という旨を記載してほしい。

市の今後の方針は適切か

(委員) 適正規模の将来設計であろうということでBとした。

(委員) 実現できるかどうかは別として、方針としては概ね適切ということでBとした。

(委員) Cと評価したが、Bでよいと考える。

(委員) 「B」評価とする。

施策評価総括意見

(委員) 総括意見は2名の委員から出されているが、他の委員は付け加える内容はな

いか。

(委員) 特にない。

(委員) この項目については、このとおりとする。

②事務事業評価

学カステップアップ事業

(委員) Bが3人でCが1人となっている。

(委員) Cとしたが、Bに変更する。内容として、Bでもよいと思う。

(委員)「拠点校の学校数が不明」と記載しているが、もし事前に説明があったのであれば削除したい。

(事務局) 説明はしていないと思う。

(委員) ではそのまま残す。「事務事業の改善に関する意見」についても、付け加えることはないか。

(委員) ない。

(委員) この事業の評価を「B」とする。

教育相談員設置事業

(委員) 私はC評価としたが、評価の理由については、B評価を付けた委員と同じ意見である。BかCか迷ったところである。

(委員) 本来であれば評価指標の部分で評価すべきところであったが、内容について評価したので適切かわからない。不登校児童に対する施策である「児童生徒への支援」でも、学校不適応対策として教育相談員設置となっている。教育相談員設置の事業が二つの施策に跨っている。いじめや不登校対策のメインが教育相談員設置事業ということであろう。その教育相談員の人数が5人となっており、極めて少ないのではないかということで、Cとした。

(委員) 平成25年度の人件費が0となっている。0であれば人を増やすというのは無理であろうということで、民間委託をしてはどうかと考えた。

(事務局) 教育相談員の分は直接事業費に含まれている。人件費については、正職員分であり、人工で配分されているもの。事務を全く行っていないというわけではないが、人件費として出てきてはいない。

(委員) 直接事業費を増やすのは難しいであろう。

(委員) だからこそ記載のとおり、いじめ対策担当の相談員を設置するなど、ある程度重点化させていかなければならない大きな問題である。

(事務局) いじめの件数については、文部科学省の調査基準が変わったこともある。

(委員) いじめと認知されるかどうかに関わらず陰湿なものが多くあり、それをしっかりフォローすることが大事であろう。これについては、Cとしたい。

(委員) 社会的に大きな問題となっており、これからも問題であり続けるであろう。BとCが同数でこのままでは決まらず、これについても可否同数のときは議長が決するというので、「C」とする。

全国大会等出場補助金

(委員) Bが2人でCが2人となっている。私はCとしたが、理由は評価指標自体を再考してもらう必要があり、「概ね適切」とは言い難いため。類似した意見もあるがどうか。

(委員) 単純にBとしたが、他の委員の意見を聞いて、BからCに変更したい。

(委員) 「事業の目的が記載されていない」とあるが、そのとおりなのか。

(委員) 何をやるのかということのみ記載され、何のためにやるのかという肝心な部分が記載されていない。これがないから成果があやふやになっている。

(委員) これを見落としていた。BからCに変更する。

(委員) 評価は「C」となる。

(2) 農林業の担い手等人材の育成支援について

① 施策評価

施策の成果が明確に定義されているか

(委員) 施策全体として、AかBとなっており、やりやすい。何度か確認しているが、最新版の施策評価シートに対する評価ということではよろしいか。

(事務局) 事務局では決められないところもあり、前回第3回の最後に確認したが、本来は当初の評価シートに対し評価をしていただくところであるが、成果の定義に誤りがあり評価しようがないという状況であった。そのため、誤りがあった経緯を残しつつ、最新版の施策評価シートに対し評価いただくということで確認した。

(委員) 最新版のシートに対する評価ということになる。それまでの指摘により担当部によりシートが修正されたため、Aという良い方にシフトしている。また、今回は、評価し難いという委員1名を除く3名の評価となる。後で付け加える内容があれば申し出てもらうようにしたい。私は、Aとし、修正すべき点もないということで理由も記載していない。Bとした委員が1名おり、少し一部見直しが必要ではないかというもの。先ほども説明したが、これまでのやり方では、1人でも見直すべきという意見があれば、全体として適切とは言い難いということで、Bとなる。

(委員) 評価の理由が適切かということは見てもらいたい。見直すと、新規就業者の定着については、「多様な人材が確保されていること」に含まれているのかもしれない。自伐型林業に就いては、細かすぎるかもしれない。

(委員) Bでよろしいのではないか。

(委員) Aとは言えないと考える。

(委員) 「B」とする。

(委員) そもそも後から出された評価シートであり、Aは付けられないのではないかなと思う。委員の意見を反映させればよくなるのは当然である。

(委員) 確かに、他の部署からすると、不公平感はあるであろう。

(委員) 今後についても、このようなことはよくないのではないかと考える。もし評価を付けるのであれば、BかCとなる。

(委員) 前回、どの段階の施策評価シートに対して外部評価シートを作成するかということを確認したが、事務局としての見解は、イレギュラーなものとして、最新のシートに対する評価をしてもらいたいということから、委員もそのとおりとした。外部評価については、他自治体の場合は担当部局との質疑応答が1回しかない。北上のように何度も担当部局が出てくるというのは稀である。修正版のシートが出てきて、それはそれで、評価委員の指摘が反映されているという意味では、悪くはないことだと思う。しかし、もやもやする気持ちはあるので、今後の課題としてどうするか。

(事務局) 評価の仕組みとして、事務局へ指摘いただく内容だと思う。

(委員) 今回に限っては、最新版に対する評価ということで進めたい。事情を知らない人から見ると、単純にすばらしいものとみられる。

評価指標の設定は適切か

(委員) 評価の理由の記載は、先ほどの「施策の成果が明確に定義されているか」の指摘に基づき、成果に定義されたものは指標にも設定すべきという内容であろう。システムティックにいくとBとなるがよろしいか。

(委員) 評価の理由に誤りがないかどうか。Aでもよいと考えたが、修正されて出てきたものであり、粗探しをし、あえてBとした。

(事務局) 定着率については、視点として必要であろうと思う。

(財務部長) 自伐型林業については、なかなか図れないのではないか。

(委員) これはこのままとし、「B」とさせていただきたい。

要因考察や課題の把握は適切か

(委員) 1人がAで、2人がBとしている。評価の理由は、それぞれ違う観点で指摘されている。総合的に見て、適切というよりは「B」一部見直しが必要としたいがいかがか。

(委員) 異議なし。

市の今後の方針は適切か

(委員) 他の委員の意見を見て、AからBに変更したい。よって全体も「B」とさせていただく。

施策評価総括意見

(委員) 付け加える内容や、変更・修正する箇所はないか。

(委員) 特にない。

②事務事業評価

北上市認定農業者連絡協議会補助金

(委員) 私の意見が、他の事業と入れ替わっている。「新規就農者育成支援事業」と「評価の理由」及び「意見」を入れ替えてほしい。ただし、どちらもCを付けているので、それは変更ない。

(委員) 先ほど事務事業評価シートを見直したならば、貢献度の記載はないので、評価の理由の記載が間違っているかもしれない。また、私はBでもCでも構わないところではある。

(委員) 私も評価するのであればCであり、理由は「補助金の使い道をもっと効果的にしてもらいたい」ため。もしかして書き直しになっていない部分か。

(事務局) 事務事業評価シートについては当初のままである。

(委員) 委員の意見が一致したということで、「C」とする。

青年就農給付金

(委員) 2人がBで1人がCとなっている。

(委員) あまり詳しくない部分であるということから、これくらいであろうということでBとした。

(委員) 事業費がとても大きい。果たしてそれだけの効果が出ているのか疑問である。選択と集中ということで、もし今後もこの事業に入れるのであれば考えなければならぬ。給付金であるから与えるものであり、補助金のように返還があるものではない。

(委員) 給付金を貰ったのに辞めてしまう場合もあるのではないか。

(委員) 投入金額に対し、定着しているのか。例えば5年や10年継続しているかということ、どこで見るのかわからない。年150万円の5年間で、750万円を貰え、それ以降どうなったのかということが見えない。貰えばなしになりそうである。

(事務局) 新規就農であるため、その間の生活のための補てんという考え方。

(委員) 今の意見を受けてCへ変更する。5年経過後のフォローがほしい。定着した人にはさらに何か手を差し伸べ、反対に辞めた人には別の手を。

(委員) 辞めてしまう場合のペナルティを付けないと、鬼気迫るものがない。これ以降のモニタリングも見えるように記載してもらいたい。

(委員) 私もBからCに変更する。よって「C」となる。

新規就農者育成支援事業

(委員) 厳しめの意見が出されている。全体的に見てCとなるのではないか。「C」でよろしいか。また、付け加える内容などはないか。

(委員) これでよい。

(委員) そもそもこの事業はなぜあるのか。継続しているから、一般会計だからあるのか。一般会計から見直してはどうか。

(事務局) 事務事業評価対象としてこの事業を選択したことに課題があったかもしれない。

(委員) 林業も含まれるのであれば、例えば「森林整備地域活動支援事業」を選び、事業費も大きく、目標達成状況が「遅れている」のであれば、なぜ遅れているのかという分析をした方がよいのではないか。

(事務局) 施策構成事務事業が多数ある場合に、それら全てをとはいかないため3事業程度としている。事務事業を選出する基準をきちんと精査し、評価の付し方への指摘として改善していきたい。

(委員) 来年度以降の課題としてもらいたい。

(3) 財政健全化の推進について

① 施策評価

施策の成果が明確に定義されているか

(委員) システマティックにいくとBとなる。

(委員) 私はAとしたが、Bでよいと思う。

(委員) 「B」とする。

評価指標の設定は適切か

(委員) 評価の理由「事業債の繰り上げ償還を実施したことは将来への公債比率を抑制した点は適切な方策である。」について、次の項目「要因考察や課題の把握は適切か」へ移動させてほしい。

(委員) 判定はBのままでよろしいか。

(委員) そのままでよい。

(委員) Aとしていたが、Bに変更したい。

(委員) それであれば、ここは「B」となる。

要因考察や課題の把握は適切か

(委員) 1人がAで、3人がBとなっている。これは全体的に見点もBであろうということで、「B」とさせていただく。よろしいか。

(委員) それでよい。

市の今後の方針は適切か

(委員) 1人がAで、3人がBとなっているため、「B」とさせていただく。

施策評価総括意見

(委員) 3名共通して、分かりやすくという意見である。

(事務局) 努力していきたい。

(委員) 付け加えること、変更することがなければこのままとする。

②事務事業評価

アセットマネジメント推進事業

(委員) 「公共施設等管理総合計画」となっているが、「公共施設等総合管理計画」へ修正してもらいたい。

(委員) Bが3人でCが1人となっている。私はCとしたが、Bでもよいかと思う。

これに関しては色々調査しており、先進自治体でも計画を策定した後上手くいっていないようである。長寿命化計画だけの話ではないので、全庁的に、財政課のみではなく各部局と本部体制を築いてやるべき内容かと思ったのでCとした。しかし、CからBへ変更する。よって、評価は「B」となる。

(委員) この公共施設等総合管理計画というのは、一つのブームなのか。

(事務局) これを策定すると、起債発行が可能になるなどということで、単独費では資産マネジメントができないということから、特定財源を利用していくために作らざるを得ないもの。

3 その他

【事務局説明】

(事務局) 児山委員に対しては、事務局から協議経過を説明し、共有を図りたい。

次回は、部会を行った後に全体会を行う。今回の協議内容を纏めたものを各委員に送付するので、内容を確認してもらいたい。

(委員) 送付されたものに意見を追加・変更してもよいのか。

(事務局) 追加等してもらってよい。

(委員) それをもって次回の部会で確認するということになる。